■河村瑞賢　　貧農の出ながら，信頼をもとに明暦の大火で飛躍，陸奥と間の東西廻り航路の国土インフラ開発し，遂に旗本に。
かわむらずいけん
・・・・・・1618＝　　伊勢国度会郡東宮村で，貧農の長男に生まれる。通称七兵衛。

紫衣勅許無効1627＝ 9歳：ある日，危なげな土橋を渡ろうしない馬を見て，人参を持ってきて渡らせるなど，才知が知られ，
商才を見込んだ父によって，家は弟が継ぐことになり，
寛永禁書令・1630＝12歳：江戸に送り出されるも，何も売り込むことができず，まず日銭を稼ぐべく車力になるが，
徳川秀忠没・1632＝14歳：
もともと好学の士で勉学を怠らないものの，
東照宮完成・1636＝18歳：
島原の乱始・1637＝19歳：元服して，十右衛門と称し，
肉体酷使に明け暮れるも，世間の実情を良く知るようにはなり，のちの才覚のもとにはなっていくが，
家光鎖国完成1641＝23歳：
寛永飢饉終・1643＝25歳：結婚すると，生活はますます厳しくなって，
・・・・・・1645＝27歳：
_ついに，一旗あげようと，上方へ向かう途中の小田原で同宿の老人から，江戸が日本の中心と論されて品川まで戻ってきたところで，海岸に流れついた精霊送りのウリやナスを見て，これを売れば商売になると閃き，仕事の無い人たちに金を払って拾い集めて貰うと，塩で味付けし縁起物の漬物にし，近くの工事現場に大量に持ち込むと，汗をかいて塩分を欲する人夫に飛ぶように売れたばかりか，現場の役人に才を買われて，人夫頭となる。’誰もしないことを誰もが望むように提供する’ことこそ極意と気づくのである。
御蔭参流行・1650＝32歳：父が死去。
徳川家光没・1651＝33歳：
新利根川完成1654＝36歳：
_やがて，蓄えた資金をもとに，材木商を営むようになになった矢先，
明暦の大火・1657＝39歳：この年，母が死去。*江戸の町の大半が焼失する<明暦の大火>が起きるや，復興には大量の木材が必要になると，火災の最中，自宅が焼けるのも省みず，信州の木曾へ走り，山林を買い占めようとするも，当然金は全く足らなかったが，何はともあれ皆を救うためと，問屋からの信頼を得たのか，全ての材木に自らの刻印をつけることによって，以後，次々と来る江戸の材木商に売り，それを問屋に渡すことによって解決，そして，自らも材木商の一員として，皆で復興に貢献，自分だけでなく他人が金儲けした時にも，ともに酒盛りし，わがことのように喜ぶような生き方が皆から信頼を得たのである。莫大な資金をもとに建築請負業を始め，やがて，幕府や諸大名に知られて，工事を請け負う一方，金銀が天下を駆け回らなくては経済が沈滞するばかりと説いて，世間を感服させるに至るとともに，復興公共事業なども行って，数百人規模もの従業員を抱えるまでになり，
殉死の禁止・1663＝45歳：
・・・・・・1664＝46歳：_故郷に錦を飾り，菩提寺に両親の墓を建て大般若経600巻を寄進，また，学問を志す青年を経済的援助，
酒井忠清大老1666＝48歳：
復興が進むとともに，江戸では人口が増え米不足に陥り，幕府は陸奥の直轄領からいかに効率よく米を輸送するかという問題に直面，信夫郡で収穫した米を川船で阿武隈川を下り，陸奥一円の集積地荒浜で海船に積み替え，銚子の港まで運び，再び川船を用いて，現在の利根川から野田まで上り，旧利根川(現在の江戸川)を下って，ようやく江戸に至るというものであったが，海路での難破や輸送中の傷みによる損失を減じるべく，建築業者や商人らから推薦されて，
・・・・・・1670＝52歳：_幕府より奥州信夫郡の幕領米数万石を江戸に回漕するプロジェクトリーダーに取り立てられると，
・・・・・・1671＝53歳：_輸送法の問題点が，商人の入札によっていて，利益を上げるため過積載になるだけでなく，海が荒れても途中寄港せずに先を急ぐため，頻繁に転覆遭難，乗組員の安全性は無視されるどころか，責任を負わされ，拷問さえあったことにあると見抜き，物を効率よく運ぶには人の力を十分に発揮させることが肝心と，乗組員の安全を第一に考えた仕組み，阿武隈川の難所について流路図に詳細に記し，海路は①船の浸水高さを決め過重積載を規制，②頑丈な伊勢・尾張・紀伊の商船を使用，③慣れた乗組員を選ぶ，④寄港地を設け船の点検・難破に対応することなどを定めるとともに，波の荒い房総沖は沖合を離れて航行し伊豆の下田から西南の風に乗って江戸まで直接船で運ぶ案を考えた上，積み荷や商人に問題がないか自ら現地検証し，寄港地には’幕府の御用船ゆえ丁重に保護するよう’周知徹底，こうして新たな仕組み(東廻海運)を確立。
東西海運確立1672＝54歳：*さらなる難題，出羽国村山郡の幕領米の江戸回漕についても改善を命じられ，それまで，酒田から海路で敦賀に至ると陸路に挙げ，琵琶湖，淀川と三度も積み替えて大坂に至り，そこから太平洋岸を海路で江戸まで運ぶ1年以上かかるものだったのを，敦賀以降も海路で下関から瀬戸内海経由で大坂まで運ぶことで，すべて海路にする案を策定，現地調査もした上で，幕府に，①日本海の航行に慣れた乗組員を雇う，②瀬戸内海に適した地元の船を用意，立ち寄る港の入港税をなくすなどを要望して許可され，火をたいて目印にしたり(のちの灯台)，岩礁の多いところは水先案内船に誘導させるなどして，わずか2カ月で配送できる仕組み(西廻海運)を確立した。東廻西廻海運は，その後の物流の基盤として，経済の発展に寄与，まさに，現在に至るまでの日本沿岸航路のインフラをつくったのであり，幕府をはじめ誰からも全面的に信頼されていたからこそ実現できたといえよう。
・・・・・・1674＝56歳：_築港が縁で，越後高田藩に招かれて中江用水開削工事の指導を依頼され，
・・・・・・1677＝59歳：この年，_寺子屋を開いた儒学者新井白石に次男を入門させ，その人物に惚れ込んで，援助し始め，孫娘の婿となることを断られても，以後大成するまで続ける。白石は，それに報いるように，瑞賢の東廻・西廻両航路の開拓について，「奥羽海運記」を著し，その後の基礎史料になっているが，その始まりに’江戸では米が足りず，東北では消費できていない’と書いている。その後も，工事におけるチームワークのノウハウと人のネットワークを活かして，
藤十郎登場・1678＝60歳：_延長28キロで灌漑面積3700ヘクタールの大用水路を完成。
この頃，次女，長男が相次いで死去。高田藩の上田銀山の開発にも尽力するが，
徳川綱吉将軍1680＝62歳：
天下一禁止・1681＝63歳：越後騒動で高田藩が取り潰しとなり，関係が中断。
八百屋お七・1683＝65歳：_それまでの土木的能力を買われて，幕府から淀川治水を命じられ，
堀田正俊暗殺1684＝66歳：_淀川改修工事に着手，
生類憐令始・1687＝69歳：
日本永代蔵・1688＝70歳：3年かけ，_新安治川を開いて完成，盛名がますます上がって，諸藩の大名から難工事が持ち込まれれる。
・・・・・・1689＝71歳：以降3年間，_幕命により上田銀山近くの鉱山開発に携わるなど，全国各地に仕事を展開するとともに，学者に託して「疎鑰提要」「本朝河功記」を著している。
湯島聖堂・・1690＝72歳：
生類憐令頂点1695＝77歳：
・・・・・・1697＝79歳：_将軍綱吉に謁し，
吉保大老格・1698＝80歳：_ついに旗本になる。大坂へ出張し，
・・・・・・1699＝81歳：*大坂の工事の完成を見て，江戸で没した。

吉川弘文館人物叢書，邦永史郎「豪商物語」，「人づくり風土記(三重)」，「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，「日本の群像」，平凡社百科事典，「目でみる日本人物百科」。NHK{先人たちの底力 知恵泉}の「河村瑞賢 ″信頼″を得る極意」で大幅追補，